医療法人恭友会
DX戦略



2026年度改訂版

医療法人恭友会

医院長　長谷川恭弘

1.DX取組宣言

医療法人恭友会は、栃木県で整形外科診療およびスポーツ医学に特化した医療サービスを提供しています。特に予防医学に力を入れ、患者様のために早め早めに様々な観点から健康を維持する方法を見つけ、ただ痛みを取るだけではなく長く健康でいられるための体づくりができるような治療に取り組んでいます。

人生100年時代と言われる昨今、働く高齢者が増え、長く健康で生活していきたいという患者様の増加により、整形外科クリニックの施設数は毎年、増加の一途を辿っています。いまや「リハビリを提供している」というのみで患者の集客をすることは難しくなってきています。従来のレントゲンを取って薬を出すだけの治療では時代に取り残されてしまいます。
また、スポーツ整形に通う学生も多く、県外・海外からも一時的な治療ではなく、今後長く痛みが出ない体にしてほしいというお声を多くいただいております。多様な患者様のニーズにお応えするために新しいデジタル技術・診断・治療方法も導入し、選ばれる整形外科クリニックに変革する必要があると思っています。これこそ、私がDXに取り組みたいと思った理由です。

当法人は、AIやデジタルシステムを用いたデータに基づく診断を導入し、姿勢や歩き方を可視化して評価・診断・サポートを行ってまいりました。今後は、これを全国・海外の患者様にも広げるとともに、姿勢・歩行のデータをAIで分析し、患者様ご自身が健康に向き合えるための伴走支援を行う「AI姿勢・動作解析サービス」を展開してまいります。あわせて、スタッフの収益や残業を可視化・分析して業務を改善し、診察・リハビリ中の記録作成をAIで効率化することで、スタッフの負担を減らして健康に働き続けられる環境（健康経営）をつくるとともに、患者様に向き合う時間を増やします。AIを活用した変革にも取り組みます。

医療法人恭友会は、患部の一部分の治療にとどまらず、デジタル技術やデータを駆使して患者様の現状を可視化しスピードをもって診断し、おひとりお一人に合ったよりよい治療法や日々の運動や食の在り方を提案することにより、長期的なビジョンで患者様の強い体づくりをサポートできるよう、メンバー全員でDX推進に取り組んでいきます。

医療法人恭友会
院長　長谷川恭弘

2.経営理念・経営ビジョン

【経営理念】

われわれは

患者様によろこばれる治療を通じて

世の中の発展と繁栄に貢献し

あわせて全員が成長する経営を行います

【経営ビジョン】

医療法人恭友会は、患者様が長く健康でいられるための体づくりを目的に、データとデジタル技術を駆使し、患者様に寄り添った伴走型の治療や健康維持サポートをおこないます。

5年後に栃木県リピート率NO.1のスポーツ整形外科クリニックを目指します。

3.DX戦略

当院は、栃木県リピート率NO.1のスポーツ整形外科クリニックになるという経営ビジョンやAI姿勢・動作解析サービス提供実現のために、下記のDX戦略を推進します。

戦略①
データ活用による
患者様満足度向上

電子カルテ、予約システム、姿勢解析システムなどで得られる患者様のデータを一元管理し、来院頻度、満足度、離脱理由、健康状態等を分析することで、来院が途絶えやすい患者様や経過に課題のある患者様を早期に把握する。その結果をもとに、お一人お一人に寄り添った情報提供・声かけを行い、患者様の満足度と来院の継続率を高める。

戦略②
AI姿勢・動作解析サービス
の提供

姿勢解析システムで得られる患者様の姿勢・歩行のデータをAIで分析し、お一人お一人の状態に合わせた運動や食生活の指導の一助とする。整形外科の治療に加え、痛みをとるだけではなく、長く健康でいるために、「AI姿勢・動作解析サービス」を活用し、患者様にどのような状態に向かえばよいか情報提供をしていくことにより、患者様ご自身が健康に向き合えるための伴走支援をする。それにより患者様のQOLを向上させる。

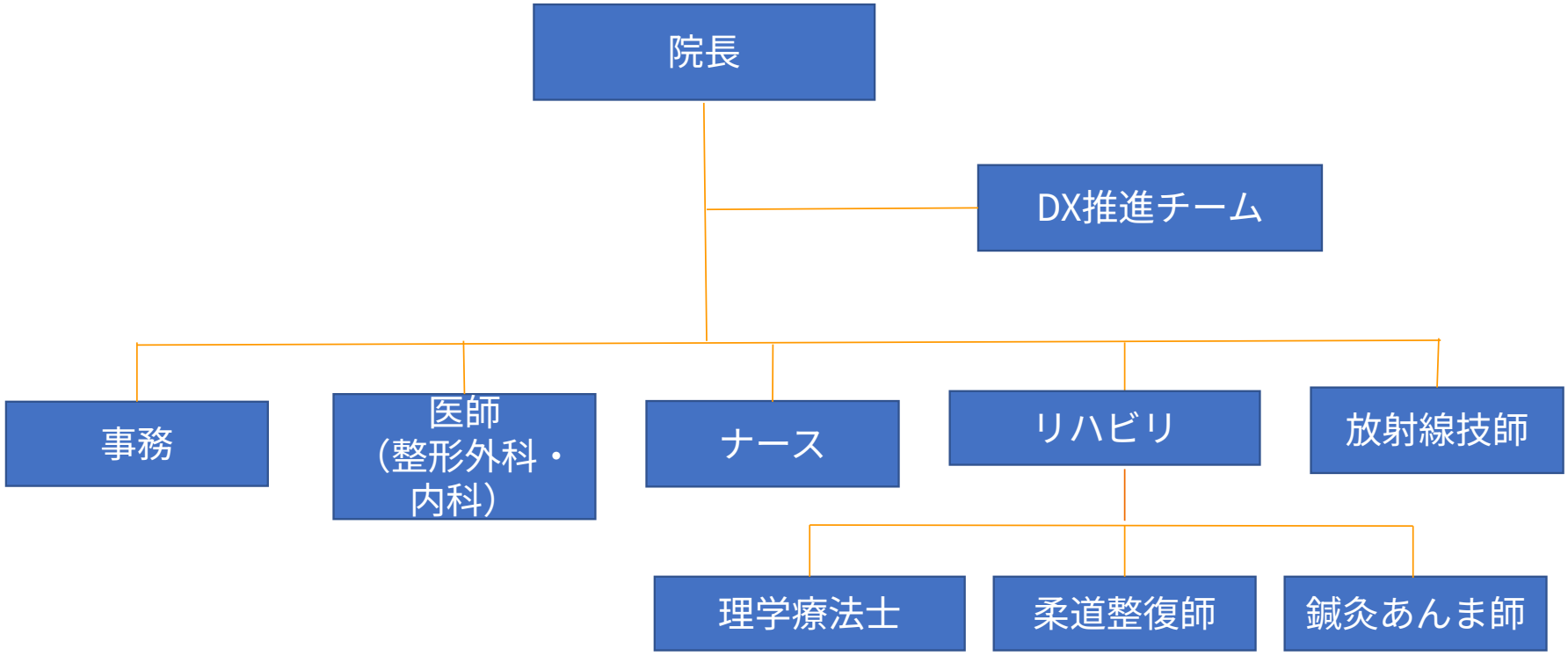
戦略③
クリニックのデジタル化と
生産性向上

クリニックのデジタル化推進のため、Web問診・デジタル問診等で、診察前の情報収集を効率化し、診察の質を高める。診察やリハビリでの患者様の音声を録音データとＡＩ要約機能等を併用することで医療記録の質の向上や作成時間の短縮をする。あわせて、スタッフごとの日次の収益や残業の量などのデータを可視化・分析して業務改善に活用し、スタッフの負担を減らして生産性を高める。また、これらを担う、デジタル技術を活用できるデジタル人材を育成する。

4.体制・人材育成

当院は、 DX実務執行総括責任者（院長）を中心としたDX推進チームを設置し、各部門長を構成員として定期的にDX戦略の進捗を確認しながらDXを推進します。

また、DX推進チームで計画を立案しデジタル人材の育成を進め、全スタッフを対象に、DX推進チームによる現場教育、新ツール導入時の全体試用と事例発表、セキュリティ教育を行います。



5.デジタル技術、環境整備

当院は、DX推進のために毎年経常利益の10%を投資し、以下の既存システムの見直しや新規システムの検討により、デジタル技術の導入や環境整備に努めます。インフラ整備の一環として、スタッフ全員にipadを貸与し、データ解析や業務連携・治療介入の補助等で活用していきます。

＜既存システム＞

・Googleワークスペース

・チャットワーク

・電子カルテ

・電算システム（会計）

・SDSビューワー（レントゲン）

・メディカル革命（予約システム）

・アイブリー（自動音声案内システム）

・SPORTIP（姿勢解析システム）

・ウイルス対策システム（対策機器と端末ソフトの二重体制）

・ホームページ編集ツール（Wordpress）

＜新規システム＞

・生産性可視化ツール

・医療記録補助システム（AI）

・GAMMA（スライド自動生成AI）

・Canva（画像・バナー等編集・生成AI）

6.数値目標（KPI）

戦略	内容	いつまでに	目標（KPI）	担当部署
戦略① **データ活用による患者様満足度向上**	データ活用による患者様満足度向上	2029年までに	2026年と比較して15%向上	全体
戦略② **AI姿勢・動作解析サービスの提供**	AI姿勢・動作解析サービスの提供	2027年までに	実施率を70%まで増加	リハビリ
戦略③ **クリニックのデジタル化と生産性向上**	AI医療記録の活用	2028年までに	60%活用	医師 リハビリ
	デジタル人材の育成	2029年までに	25名	DX推進チーム
	スタッフの生産性向上（残業時間の削減等）	2028年までに	月平均残業時間を2026年度比で20%削減	事務

７．DXに関する院長（実務執行総括責任者）メッセージ

変革のときを迎えた医療。
医療法人恭友会は、DXで患者様の未来を拓きます。

医療法人恭友会院長、長谷川恭弘です。

栃木県で整形外科診療とスポーツ医学に特化し、予防医学にも力を入れて、患者様一人ひとりの健康維持と、痛みを取り除くだけでなく、長く健康でいられるための体づくりをお手伝いしています。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。患者様のニーズも多様化し、より質の高い医療サービスを求める声が高まっています。

そうした状況を踏まえ、医療法人恭友会は、DXに積極的に取り組んでいきます。
DXを行う目的は、決して最新技術を導入することだけではありません。
データとデジタル技術を使って、診察をより効果的に行い、患者様の健康増進に役立て、地域医療の発展にも貢献していきたいと考えております。

また、スタッフが健康に誇りを持ち、働きやすく生産性を向上させる環境があるからこそ、患者様により良い医療を提供できる土台となっていると考えています。

DXは、医療の未来を変える可能性を秘めた大きな力です。医療法人恭友会は、この力を活用し、患者様とスタッフ双方の健康と幸福に貢献してまいります。

今後とも、医療法人恭友会をよろしくお願いいたします。

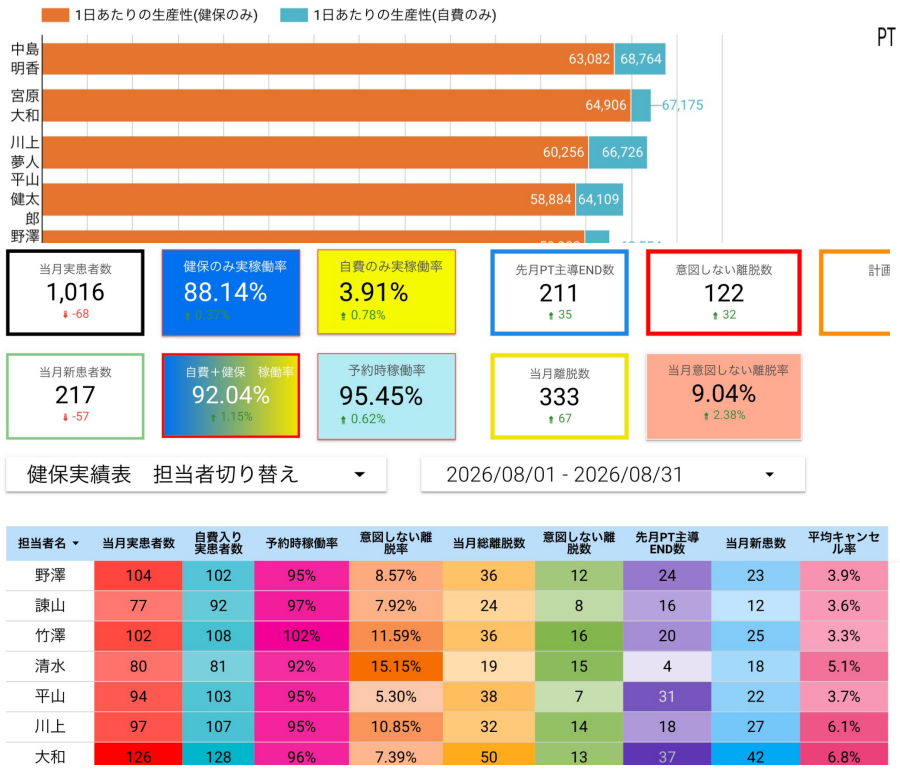
医療法人恭友会 院長 長谷川恭弘

具体的なデジタル技術内容（非公開情報）

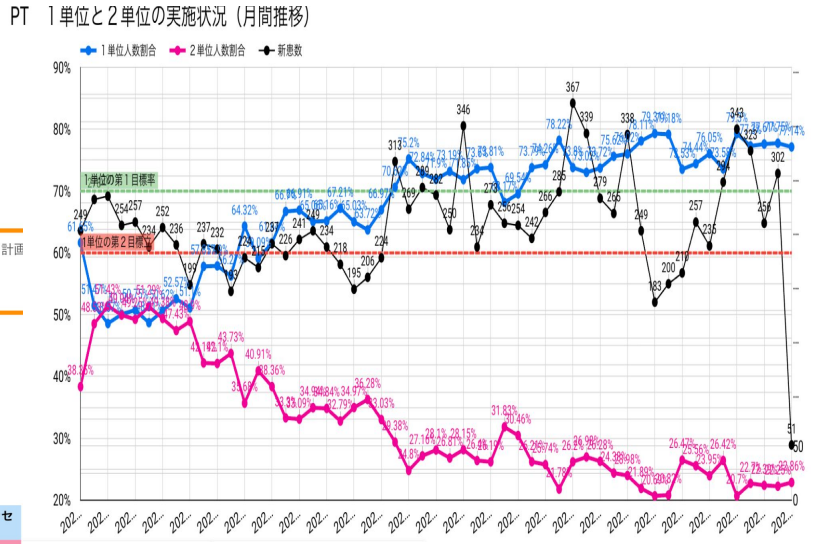
戦略①

Looker Studio

・日報データからリハビリスタッフの単位取得状況や収益状態を自動計算し、Looker Studio等で可視化しております。その情報とメディカル革命からの統計情報もとに、患者様の月間の対応人数を把握し、通院の途中離脱がないかなども含めて確認していくことで、数値的にスタッフの対応に改善が必要かどうか見極めるツールとしております。これを満足度向上に役立て、戦略①のKPIの指標として用いています。



担当者名	当月実患者数	自費入り実患者数	予約時稼働率	意図しない離脱率	当月総離脱数	意図しない離脱数	先月PT主導END数	当月新患数	平均キャンセル率
野澤	104	102	95%	8.57%	36	12	24	23	3.9%
諫山	77	92	97%	7.92%	24	8	16	12	3.6%
竹澤	102	108	102%	11.59%	36	16	20	25	3.3%
清水	80	81	92%	15.15%	19	15	4	18	5.1%
平山	94	103	95%	5.30%	38	7	31	22	3.7%
川上	97	107	95%	10.85%	32	14	18	27	6.1%
大和	126	128	96%	7.39%	50	13	37	42	6.8%

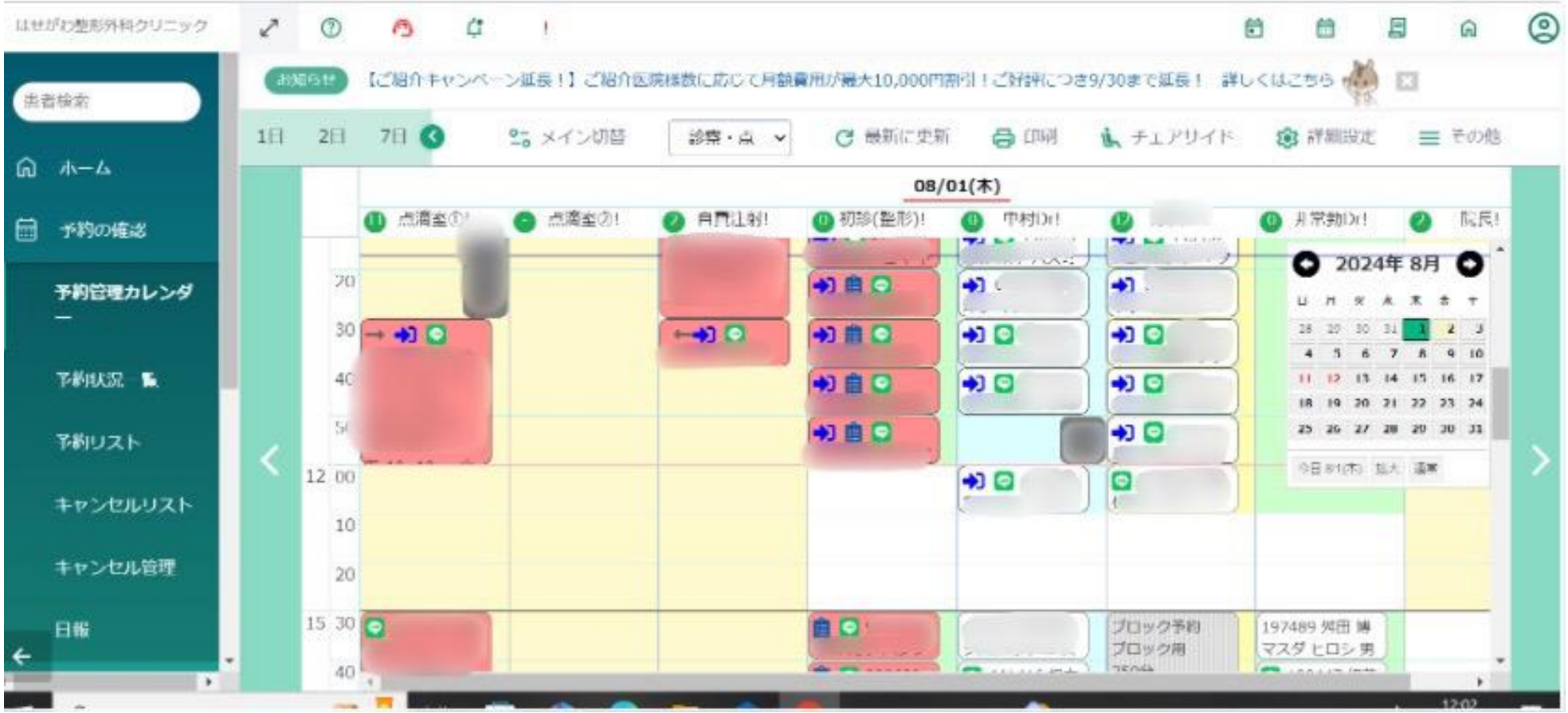


具体的なデジタル技術内容（非公開情報）

戦略①

メディカル革命（予約システム）

・順番受付、時間帯予約など、患者さんの呼出順番が管理画面で一目でわかります。
タブレット端末やLINEと連携しそのまま予約可能です。



具体的なデジタル技術内容（非公開情報）

戦略②

スポルティック（姿勢解析システム）

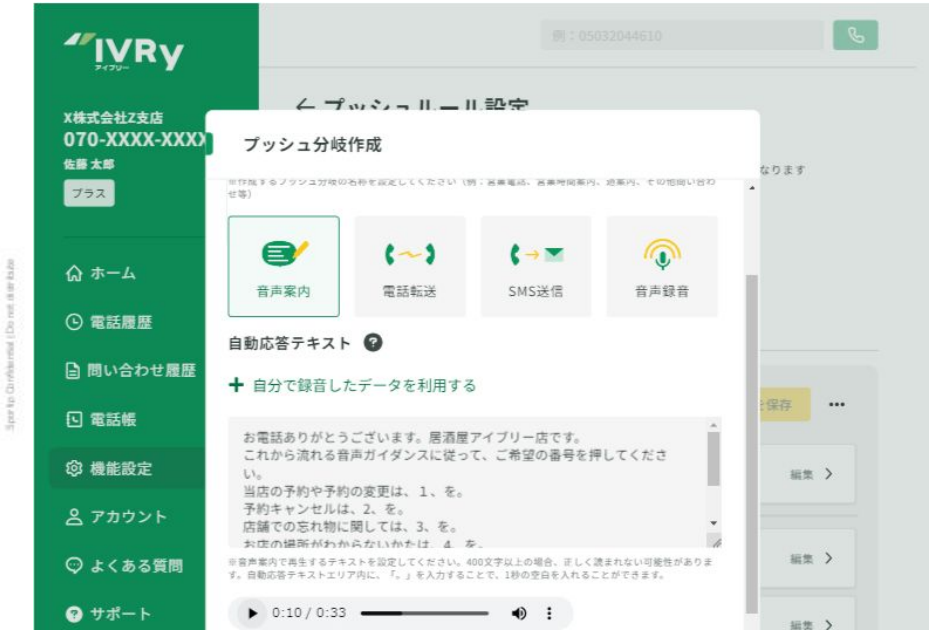
・iPhoneやiPadと連携して145点の座標解析ができ、これをもとに姿勢や歩き方を可視化して評価（筋力が落ちている、硬くなっている、関節の動きが悪い等）・診断・サポートに生かしています。

戦略③

アイブリー（自動音声案内システム）

・自動応答(IVR)、電話転送、SMS送信、AI自動文字起こし等便利な機能が安価で即時利用できます。





具体的なデジタル技術内容（非公開情報）

戦略③

リハビリ記録SOAP化支援アプリ（自費提案資料作成支援）

・診察・リハビリ中の会話を録音して文字起こしし、そのテキストを入力すると、AIがSOAP記録を作成します。

記録の内容をもとに、GAMMA（スライド自動生成AI）で患者様への治療提案資料を作るためのプロンプトを自動で作成し、提案資料の作成に活用しています。

